

日本経済新聞 2019年3月18日

東北財務局、金融仲介シンポ 地銀や信金トップら参加

東北財務局は18日、仙台市内で金融仲介の質の向上について議論するシンポジウムを開いた。テーマは「新事業創出・創業などによる企業の成長と地域経済の発展」。金融庁参与でNPO 法人日本動産鑑定会の森俊彦会長が講演し、七十七銀行の小林英文頭取や鶴岡信用金庫の佐藤祐司理事長らによるパネル討論を実施した。

森氏は課題の一つとして事業承継を挙げた。金融機関の取引先の3分の1が廃業危機にあると指摘。「金融機関は手数料目的の事業承継ビジネスでなく、抜本的に取り組むべきだ」と語った。

パネル討論では金融機関の役割について議論。佐藤氏は「事業性評価は顧客との対話のツールにすぎず、そこから課題をみつけて解決する」と語った。小林氏は「銀行は経営者の熱意やビジネスモデルを見極める」と強調。互いに信頼関係を築く重要性を述べた。